

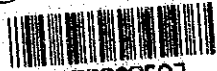


ASEAN 人権研修プログラム
(CASTU 職業訓練指導員人権研修講座(2/2))
実施簡報報告書

1993年10月

社会開発協力部 報告書

JICA LIBRARY



1058868[9]

ASEAN 人造りプロジェクト
CIAST(職業訓練指導員・上級技能訓練センター)
実施協議報告書

1982年10月

国際協力事業団

国際協力専門	
受入 期 84. 4. 30	113
登録No. 04017	24.7
	SDC

序

1981年1月、鈴木総理大臣がASEAN諸国訪問の際、総理より提唱されたASEAN人作りプロジェクトについて、その具体化を計るため1981年3月東京において第1回準備会合が開催され、日本側構想の基本的枠組が明らかにされたが、その後、1981年5月マニラにおけるASEAN常任委員会における討議を通じ、各国のプロジェクトを明確化し、個別に二国間協議によって引続き取り進めることになった。

マレーシア政府は本件対象プロジェクトとして第4次マレーシア計画（Forth Malaysia Plan, 1981 - 1985）に基づく人材開発の一環として職業訓練指導員の養成、企業在職者に対する技能向上訓練、監督者に対する訓練等を実施する機関の設立を取り上げ、CIAST（職業訓練指導員・上級技能訓練センター）を計画し、その実施について、我が国に対し正式に協力を要請するに至った。

この要請を受け当事業団は1981年8月及び12月の二度にわたり予備調査を行ないマレーシア側のプロジェクトプロポーザルの内容を明確にし、1982年4月事前調査団を派遣して技術協力マスタープラン作成のための協議を行なった。

今般、雇用促進事業団理事長道正邦彦氏を団長とする6名の実施協議チームを昭和57年8月8日より8月22日までの15日間マレーシアに派遣したが、本件実施協議チームはCIASTプロジェクトに対する協力実施のための諸調査を行ない、協力に係る具体的事項についてマレーシア国政関係当局と協議を行なった結果CIAST設置に関する討議議事録（R/D）に署名を行なった。

本報告書は実施協議チームの現地における諸調査及び討議議事録署名に至る協議内容を中心にとりまとめたものである。

おわりに、実施協議チームの道正団長はじめ団員諸氏のご協力ならびに外務省、労働省、雇用促進事業団等関係当局及び現地において多大なご協力を賜った在マレーシア日本大使館の方々に対し、深甚の謝意を表するとともに、今後とも関係各位の一層のご協力を得て本プロジェクトの推進に努めることといたしたい。

1982年10月

国際協力事業団

理事 中澤 式 仁



CIAS T建設予定地



R/D署名 中央が道正団長、右側がLATIFF
労働人的資源省次官



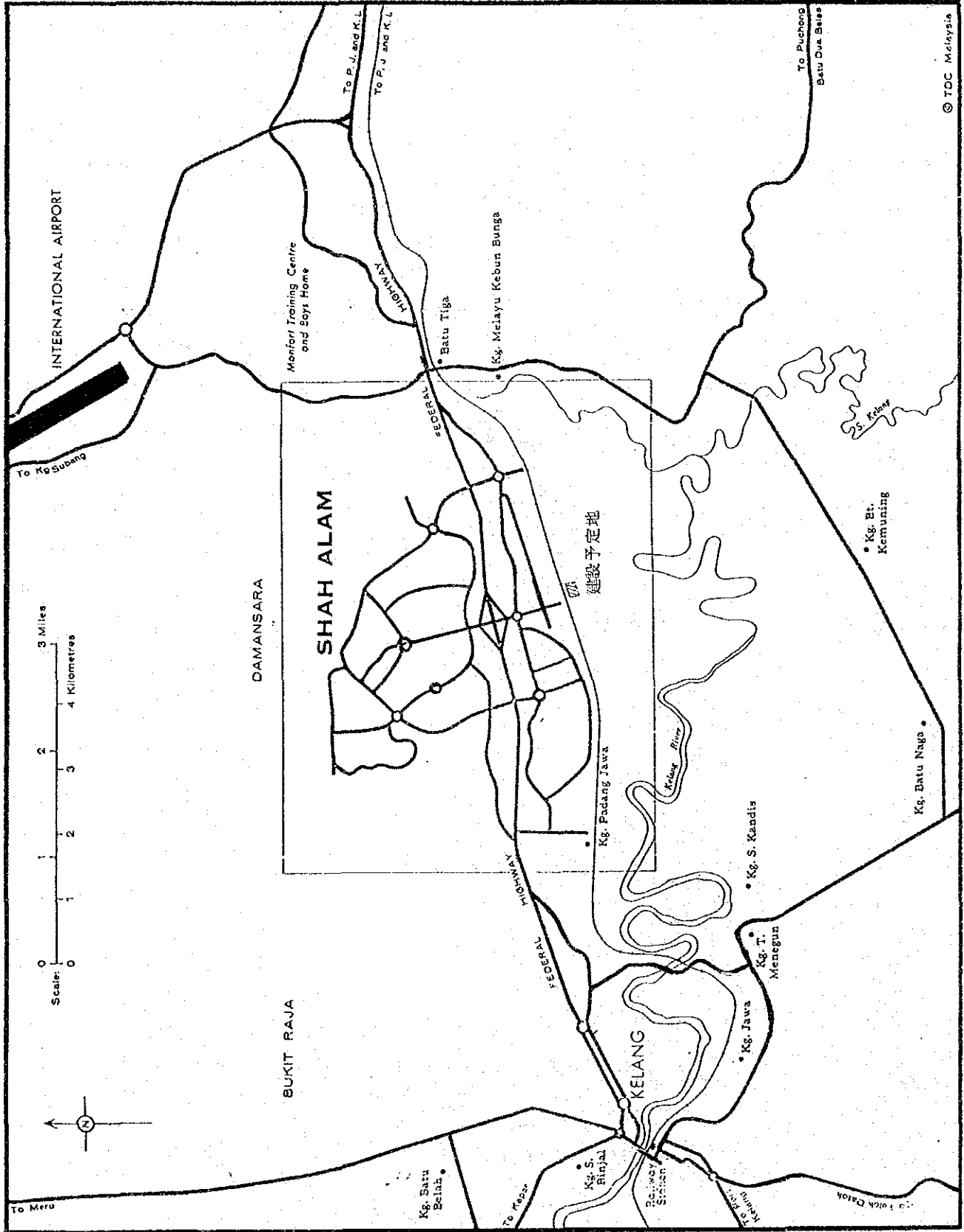
ITP(クアラルンプール)視察
右側がWAN校長



プロジェクトにての打合せ

建設予定地周辺地図

SHAH ALAM AND ENVIRONS



目 次

I	プロジェクト概要	1
II	実施協議チーム派遣の経緯	3
III	実施協議チームの構成	4
IV	調査日程	5
V	調査交渉方針	16
VI	調査・交渉概要	18
VII	討議議事録 (R/D Record of Discussions)	
	本文 (英 文)	94
	仮訳 (日本文)	113
VIII	TECHNICAL COOPERATION PROGRAMME FOR CIAST	
	本文 (英 文)	122
	仮訳 (日本文)	126
IX	資 料	
1.	生活関連事情	129

I プロジェクト概要

目的

第4次マレーシア計画に基づく技能労働力開発計画の一環として設立される職業訓練指導員・上級技能訓練センター（Centre for Instructor and Advanced Skill Training: CIAST）に対してアセアン人造りプロジェクトとして技術協力を行うことを目的とする。

本センターはマレーシア国内における職業訓練施設及び企業内で指導に当たる職業訓練指導員及び監督者に対する養成訓練及び向上訓練のためのナショナルセンターであり、併せて技能労働者及び指導員に対する上級技能訓練を実施するものである。更にアセアン人造りプロジェクトとして職業訓練の技法及び上級技能訓練の普及を通じてアセアン諸国間の協力が強化されることが期待されている。

内容

日本政府による技術協力の範囲に含まれる訓練の内容は次のとおりである。

1. 指導技法訓練

新規職業訓練指導員養成プログラムの一環として、職業訓練指導員となるべき者に対し指導技法（教育技法）及び教材開発の分野における訓練コースを準備（提供）し実施すること。

a. Trainee Instructor 養成コース

b. Trade Instructor 養成コース

2. 監督技法訓練

現職の職業訓練指導員及び監督者に対し、その資質向上コースとして、訓練技法、監督技法及び教材開発の分野における訓練コースを準備（提供）し、かつ実施すること。

3. 上級技能訓練

現職の職業訓練指導員、監督者及び技能労働者に対し、その技能向上プログラムとして、技能向上訓練コースを準備（提供）し、かつ実施すること。

(1) 自動車科

(2) 工作機械・金型科

(3) 重工業科

(4) 電気・電子科

(5) 計装及び自動制御科

(6) 金属加工科

4. 訓練ソフトウェア開発

CIASTによって管理されるプログラムに係るカリキュラム、その他訓練ソフトウェア及びコントロールシステムを設計し、開発し、かつ作成すること。

5. その他

(1) 他の訓練施設において提供され実施される新規職業訓練指導員となる者の実習をモニターし、か

つ監督すること。

(2) 必要に応じ、かつ必要な時点で他の上級訓練プログラムを設置すること。

協力期間

昭和57年8月20日～昭和62年8月19日（5年間）

II 実施協議チーム派遣の経緯

ASEAN人造りプロジェクト構想は、昭和56年1月、鈴木総理のASEAN諸国歴訪の際に提唱されたものであり、ASEAN諸国の社会、経済発展に不可欠な人材の育成に協力を行い、もってその発展に寄与することを目的としている。本構想の実現にあたっては、ASEAN各国が1つずつのプロジェクトを策定することとなっており、マレーシアのプロジェクト（Centre for Instructor and Advanced Skill Training, CIAST）も下記の作業課程の中ですすめられてきた。

1. ASEAN人造りプロジェクト第1回準備会合（於東京）（昭和56年3月31日～4月1日）
 - 我が国からの本構想についての基本的枠組に関する説明
 - 各国のプロジェクト要請内容の説明
 - 具体化に向けての準備
2. ASEAN常任委員会（於マニラ）（昭和56年5月18日）
 - 各国プロジェクトについては、我が国との二国間協力ベースにより行うこと
 - プロジェクトの実施については、それぞれ準備が完了次第取り進めることを決定
3. 第1次予備調査団（昭和56年8月9日～8月19日）
 - マレーシア政府により提出された Project Document に関する現地事情の把握及び調査
 - 本件プロジェクト協力の必要性及び可能性の確認
4. ASEAN人造りプロジェクト第2回準備会合（於ジャカルタ）（昭和56年10月6日～10月7日）
 - 沖縄に国際センターを設置することの了承
 - 各国に実施されるプロジェクトに関する合意
 - 今後のASEAN運営委員会による日本側との随時会合
 - 今後の手続についての合意（a, 二国間交渉でつめを行う。b, 調査団派遣、プロジェクト実施時期。c, 協力期間は5～7年とする）
5. 第2次予備調査団（昭和56年12月6日～12月20日）
 - 専門家グループによる技術的側面からの意見交換及び調査
 - 技術協力マスタープラン作成のための資料収集、協議
6. 事前調査団（昭和57年4月8日～4月22日）
 - マスタープランについての基本的合意のための協議
 - 討議議事録（R/D）にもり込まれるべき事項についての詳細討議
 - プロジェクト実施に関する周辺事情の調査

以上の準備作業を受けて、今般、マレーシアにおけるASEAN人造りプロジェクト（CIAST）に関する技術協力分野における二国間の協力を開始すべく討議議事録の詳細について十分な協議を行うとともに、今後のプロジェクトの運営を遅滞なく進行させる上で両国が取るべき措置、責任を明確にし、討議議事録に署名を行うべく実施協議チーム（以下調査団という）が派遣されることになった。

Ⅲ 調査団の構成

団 長	道 正 邦 彦	雇用促進事業団理事長
協 力 企 画	木 全 ミ ツ	労働省職業訓練局海外技術協力室室長
協 力 企 画	小 野 宏 逸	外務省経済協力局技術協力第二課課長補佐
訓練ハードウェア	岸 本 隆 臣	雇用促進事業団東京職業訓練短期大学校教導
訓練ソフトウェア	岩 城 忠 男	労働者職業訓練局海外技術協力室
協 力 企 画	等々力 勝	国際協力事業団社会開発協力部海外センター課
(団 長 秘 書)	木 谷 幸 男	雇用促進事業団職業訓練部次長

IV 調 査 日 程

日順	月 日	曜日	時 間	主要項目・調査内容等	同 席 者
1	8/8	日	10:00	成田空港出発 MH 011 (台北、香港経由)	
			19:50	クアラルンプール到着 青柳書記官、山本 JICA 事務所次長出迎え Hotel Plaza へチェックイン	
			21:20	小野団員フィリピンより到着 (MH 064) 同上ホテルへチェックイン	
			21:30	団員打合わせ	
			23:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査団日程について ○ 団長の宿泊ホテルの選定について 	
2	8/9	月	9:30	JICA 事務所にて打合わせ	青柳書記官、山本
			10:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査団日程の検討 ○ ドラフト説明ミッションの交渉経過について ○ 団長の宿泊ホテルについて 	
			10:30	大使館表敬	
			12:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査団日程打合わせ ○ R/D 日本案に対する「マ」側ドラフト内容の説明 	阿部所長
			15:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ R/D 日本案に対する「マ」側ドラフト内容の説明 	
			18:00	日本経済新聞 JAKARTA 駐在特派員山下智久氏に CIAST について説明 (木全)	
			20:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ ドラフト説明ミッションとの打合わせ ○ (1)食堂の拡大、(2)寄宿舍の 200 名分の追加、(3)機材リストの追加要求について 	
			20:00	班別検討会	
					木村公使、青柳書記官 阿部所長

			24:30	(I班) マレーシア側 R/Dドラフトに対する 対処方針 (II班) ドラフト説明ミッションに提出された 追加機材リストの検討 (岸本、岩城) (すでに「マ」側から提出されたもの 及び「日」側案で提示されているもの とほとんど重複しているものであること を確認)	
3	8/10	火	9:30	第1回全体会議 (於 EPU) } ◦ 両国参加者紹介及びあいさつ 11:00 ◦ 調査団滞在日程の設定 R/D討議日程 団長表敬日程 R/D署名 (日時、署名者、場所、写真、 装丁、新聞発表等) 世銀プロジェクト打合わせについて ◦ 調査団交渉相手の明確化	青柳書記官 阿部所長 ※1. (マレーシア側出 席者は本項末の一欄 表を参照のこと)
			11:00	R/D討議開始 } ◦ R/D趣旨説明 12:30 ◦ R/Dの根拠となる背景説明 ◦ R/D本文検討 ◦ THE ATTACHED DOCUMENT 検討 (議論が活発に行われ時間切れとなり持ち 越す)	同 上
			14:20	ドラフト説明ミッションの交渉にオブザーバー } として参加 (労働人的資源省) 17:00 17:30 調査団対処方針打合わせ }	
4	8/11	水	19:30 10:00	第2回全体会議 (於 EPU) } ◦ THE ATTACHED DOCUMENT I Cooperation between both Governm- ents	※2
			12:15		

			II Despatch of Japanese Experts III Provision of Machining and Equipment ○「日」側より新機材リスト提出	
			12:30 労働人的資源省 Mahmud 人的資源局長主催昼食会 (於Holiday Inn (マレー料理)) 14:00 (ドラフト説明ミッション、実施調査団合同招待) 14:15 調査団対処方針打合わせ 20:00	
5	8/12	木	8:30 緊急打合わせ会 (ドラフト説明ミッション、実施調査団合同) ○ドラフト説明ミッションの署名 ○R/D「マ」側修正提案について 10:00 2班に分かれて行動する (I班) 調査団対処方針打合わせ (木全、小野、等々力) 16:00 (II班) MIRDC 専門家住居訪問生活事情調査 (岸本、岩城) 日本人学校訪問 日本人会訪問 自動車ディーラーにて車両価格調査	
			16:00 調査団対処方針打合わせ ○マ側 R/D案に対する外務省電報検討 18:00 18:30 ドラフト説明ミッション送別会 (於竹葉亭) 22:00	青柳書記官 青柳書記官 阿部所長夫妻
6	8/13	金	8:50 ドラフト説明ミッション見送り朝食会 (於 PLAZA HOTEL) 9:00 業務整理	

			14:30		
			15:00	第3回全体会議（於EPU）	青柳書記官
				○ THE ATTACHED DOCUMENT	阿部所長
			17:00	III Provision of Machinery and Equipment	
				IV Training of Malaysian Personnel in Japan	※ 3.
				V Services of Malaysian Counterpart Personnel and Administrative Personnel	
				VI Measures to be taken by the Government of Malaysia (Colombo Plan Scheme の言葉を現在使用することの是非について)	
				VII Administration of the Project (Administrative mattersの解釈について)	
			17:30	調査団打合わせ（木全、岸本、岩城）	
				○ 世銀関係「マ」側別途要請について	
			19:00		
7	8/14	土	9:30	世銀関係「マ」側要請について打合わせ (於労働人的資源省)(木全、岸本、岩城)	※ 4.
			12:00	○ 要請内容、問題点の検討	
			20:00	「マ」側関係者招待ディナー (於 Yazmin レストラン)	※ 5.
			22:00		
8	8/15	日	10:00	クアラルンプール空港へ道正団長出迎え	青柳書記官
				○ MH 084 A便にてシンガポールより到着	
			12:00	○ Equatorial Hotel へチェックイン	
			16:30	団長に対する日程及び経過説明	
				○ 日程説明	
			19:00	(1)表敬訪問について (官房長官、労働大臣)	
				(2)団長主催レセプションについて	

			<p>(3)R/D署名について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体会議の経緯と今後の方針 (1)「マ」側主要関係者について (2)「マ」側修正案について (3)「日」側対処方針について (4)会議の経緯について (5)現在までの修正合意部分について (6)今後の問題点について <p>○その他</p>		
		20:30	青柳書記官夫妻招待 Drinks (於青柳邸)		
		23:30			
9	8/16	月	10:30	大使表敬訪問	有田大使、木村公使 青柳書記官
				○交渉経過報告及び懇談	
			11:30		
			14:00	2班に分かれて行動	
				(I班) ITI, K. L. (Industrial Training Institute, Kuala Lumpur)視察	
			16:00	○同校沿革、運営状況調査	
				○各コース訓練状況視察 (道正団長、木谷、岸本、岩城)	
				(II班) 第4回全体会議 (於EPU)	※ 6.
				○ THE ATTACHED DOCUMENT	
				VII International Characteristics of the Centre as part of the ASEAN Human Resources Development Project	
				K Claims Against Japanese Experts	
				X Mutual Consultation	
				XI Term of Cooperation	
				“However” 論議で時間切れとなる	
			18:00	2班が合流し、相互報告及び検討	
			19:00		

10	8/17	火	19:30	阿部 J I C A 所長主催夕食会) (於 Hotel Regent 中華料理)	阿部所長
			21:40		
			11:30	労働人的資源大臣表敬) (於労働人的資源省大臣室)(道正団長、木全、	木村公使
			12:00	小野) (テレビ、カメラ同時撮影→当夜ニュースにて 放映)	
			12:00	インタビュー) Bernama(Malaysian National News	木村公使
			12:20	Agency) 南洋商報 (Nan yang Siang Pau) (道正団長、木全)	
				→翌朝 New Strait Times 及び南洋商報に関 連記事が掲載される。	
			14:00	第 5 回全体会議 (E P U))	
			16:40	◦ THE ATTACHED DOCUMENT XI Term of Cooperation ◦ Annex I MASTER PLAN 1.Objective of the Project 2.Objective of the Programme 3.Framework of the Training System in CIAST ◦ Annex II JAPANESE EXPERTS ◦ Annex III LIST OF EQUIPMENT ◦ Annex IV LIST OF MALAYSIAN STAFF ◦ Annex V THE JOINT COMMITTEE ◦ R/D 全体の討議を終る。直ちに R/D の タイプ作業へ移行、8/19 校正作業を行う こととする。	青柳書記官 ※ 7.
			21:00	団長室にて団員打合わせ)	
22:40	◦ テレビニュースにて労働人的資源大臣表敬 の模様を放映				

11	8/18	水	9:30	第6回全体会議（於労働人的資源省）	※ 8.
			12:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ R/Dに基づく詳細計画について（技術的事項） 研修員受入れ計画 専門家の派遣計画 	
			14:30	第7回全体会議（於労働人的資源省）	
12	8/19	木	16:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ R/Dに基づく詳細計画について（技術的事項） 専門家の要請内容討議 研修員の受入れ及び専門家派遣に関する手続き方法 	※ 9.
			20:00	労働人的資源省 Mahmud 人的資源局長夫妻招待の夕食会 (Satay Dinner)(於 Mahmud 邸)	※ 10.
			22:00		
			9:00	R/D校正作業（於EPU）	
			11:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 討議の終了したR/DをEPUにてタイプ これを「日」マ」双方により校正、修正作業を行う 	
				2班に別れて作業	
			14:30	（Ⅰ班）新聞発表原案作成作業（木全、小野）	
			17:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ R/Dに基づく詳細計画（技術的事項）の Note の検討 	青柳書記官
			14:30	（Ⅱ班）資料整理（岸本、等々力、岩城）	
			17:00		
			19:30	大使主催夕食会（於大使公邸）	有田大使御夫妻 木村公使御夫妻 青柳書記官
			22:00		
			22:45	団員打合わせ	
			24:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ R/D署名について ○ 国際技術協力の諸問題について（意見交換） 	

13	8/20	金	8:30	新聞発表案の最終確認 (於EPU)(木全、小野)	※ 11.
			9:00	官房長官表敬 (於官房長官室) (道正団長、木全、小野、木谷)	木村公使
			9:20		
			10:00	R/D署名式 ○「日」マ」双方によるあいさつ	木村公使 青柳書記官
			10:30	○道正団長と労働人的資源事務次官による署名 ○記念撮影	※ 12.
			14:00	CIAST建設予定地の視察 ○「マ」側の事情により建設予定地が変更となり新建設予定地を確認することとなった。	※ 13.
			17:00	○PKNS (Selangor State Development Corporation)において建設予定地の概略及びシャー・アラーム地区開発計画についての事情聴取 ○建設予定地の視察 現在低地なるも2.5mの盛土工事は12月中完成予定	
			18:30	団員打合わせ ○R/Dに基づく詳細計画 (技術的事項) について	
			19:30	○世銀関係「マ」側要請の内容について	
			20:00	道正団長主催によるレセプション (於 Hilton Hotel, Rajah Room, マレー料理)	有田大使、木村谷使 青柳書記官、阿部所長
			22:00		※ 14.
			22:00	Mr. Mahmud Idris 及び Mr. Kamaruzaman 案内による市内見学 (現地産果物試食; ドリアン等)	

14	8/21	土	9:00	資料整理)	
				帰国準備	
			16:00		
			16:00	団員打合せ)	
			19:30		
			20:00	Mr. Latiff 労働人的資源事務次官主催夕食会 (於 Selangor Club)	阿部所長 ※ 15.
			22:00		
15	8/22	日	5:00	ホテル出発シンガポール、香港経由にて帰国 (SQ-101、CX-710、CX-500)	青柳書記官

* 「マ」側出席者一欄表

* 1. 第1回全体会議 (8/10 (火) 9:30~12:30)

Mr. Helmi Mohd, Noor (EPU)(議長)

Ms. Wong Peg Har (EPU)

Ms. Daizy Rajoo (EPU)

Mr. Saharuddin Mat Azil (EPU)

Mr. Wan Zahir Sheikh (MOLM)

Mr. Mahmud Idris (MOLM)

Mr. Mohamad Abdul Kadir (MOLM)

Mr. Durai Raja Lingam (MOLM)

* 2. 第2回全体会議 (8/11 (水) 10:00~12:15)

Mr. Helmi (議長), Ms. Wong, Mr. Azil (EPU)

Mr. Ahmad Anuan (MOF)

Mr. Mahmud, Mr. Lingam, Mr. Kadir (MOLM)

* 3. 第3回全体会議 (8/13 (金) 15:00~17:00)

Mr. Helmi (議長), Ms. Wong (EPU)

Mr. Anuan (MOF)

Mr. Mahmud, Mr. Kadir (MOLM)

Mr. Mohd. Rashid Abu Hassan (MOLM)

Mr. Wan Seman Wan Ahmad (MOLM)

* 4. 世銀関係「マ」側要請打合わせ (8/14 (土) 9:30~12:00)

- Mr. Mahmud (MOLM)
- * 5. 「マ」側関係者招待ディナー (8/14 (土) 20:00~22:00)
Mr. and Mrs. Mahmud (MOLM)
Mr. Rashid, Mr. Wan Seman (MOLM)
- * 6. 第4回全体会議 (8/16 (月) 14:00~16:00)
Mr. Helmi (議長)、Ms. Wong (EPU)
Mr. Anuar (MOF)
Mr. Mahmud, Mr. Kadir, Mr. Lingam, Mr. Wan Seman (MOLM)
- * 7. 第5回全体会議 (8/17 (火) 14:00~16:40)
Mr. Helmi (議長), Ms. Wong, (EPU)
Mr. Kamaruzzaman Shariff (EPU)
Mr. Mahmud, Mr. Kadir, Mr. Lingam, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman (MOLM)
- * 8. 第6回全体会議 (8/18 (水) 9:30~12:30)
Mr. Mahmud (議長), Mr. Lingam, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman,
Mr. Azumi Ali (MOLM)
- * 9. 第7回全体会議 (8/18 (水) 14:30~16:30)
Mr. Mahmud (議長), Mr. Lingam, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman,
Mr. Azumi (MOLM)
- * 10. Mahmud 局長夫妻招待夕食会 (8/18 (水) 20:00~22:00)
Mr. and Mrs. Mahmud, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman,
- * 11. 新聞発表案の最終確認 (8/20 (金) 8:30~9:00)
Ms. Wong (EPU)
Mr. Mahmud (MOLM)
- * 12. R/D署名式
Mr. Abdul Latiff Sahan (MOLM)
Mr. Kamaruzzaman, Ms. Wong, Ms. Rajoo (EPU)
Mr. Wan, Mr. Mahmud, Mr. Kadir, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman (MOLM)
Mr. Anuar (MOF)
- * 13. CIAS T建設予定地視察 (8/20 (金) 14:00~17:00)
Mr. Lingam, Mr. Azumi (MOLM)
Mr. Cheng Peng Hong (PKNS)
- * 14. 道正団長主催によるレセプション (8/20 (金) 20:00~22:00)
Mr. Yusof Hitam (MOF)(代理)

Mr. Kamaruzzaman, Ms. Wong (E P U)

Mr. Latiff, Mr. Mahmud, Mr. Kadir, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman (M O L M)

* 15. Latiff 労働人の資源事務次官主催夕食会 (8 / 21 (土) 20 : 00 ~ 22 : 00)

Mr. Latiff (M O L M)

Mr. Helmi, Mr. Kamaruzzaman, (E P U)

Mr. Yusof, (M O F)

Mr. Wan, Mr. Kadir, Mr. Rashid, Mr. Wan Seman (M O L M)

Mr. Bavanandan C. V.

V 調査交渉方針

昭和57年4月8日から同年4月22日にかけて派遣された事前調査団の調査結果に基づき、慎重に検討作成された、当CIAS Tプロジェクトの討議議事録(R/D)(案)(以下R/Dという)を事前にマレーシア政府に示し、両国政府関係者同席の上で徹底的な協議を行い、もって「日」マ」両国が、このCIAS Tプロジェクトに関し、同一の認識の上になって相互に協力し合い、かつ運営できるよう、最終的合意を得、R/Dに署名のうえ、協力を開始させることを目的とした本調査団は、マレーシア政府との協議に臨むに当たり、次の点を基本方針とすることとした。

1. 実施調査団の目的の説明

事前調査団が派遣された折に結ばれた Minutes を基本線とし、あらかじめ送付されたR/D(案)について相互に十分な協議を行い、R/Dに署名の上協力を開始すること。更に、協力の開始にあたり、両国政府間における当面の技術協力分野での取るべき措置について意見交換を行い合意をえること。

2. 交渉基本方針

本プロジェクトは今後5～7年の長期に亘って我が国が協力するものであり、これを運営してゆくためには、両国関係者が同一の認識にたって行動することが必要であり、可能な限り誠心誠意徹底的に協議を行うこと。

(1) ASEAN人造りプロジェクト第2回準備会合(於、ジャカルタ昭和56年10月6～10月7日)との関係

本件プロジェクトは、ASEAN人造りプロジェクトの一環であることを念頭におき、昭和56年10月6日～10月7日の間インドネシア・ジャカルタにおいて開催されたASEAN人造りプロジェクト第2回準備会合の討議議事録を尊重するものとする。

(2) National Centre としての性格

ASEAN人造りプロジェクトとして、ASEAN諸国間で相互に活用されるマレーシアの National Centre として機能してゆくための位置付けを明確にし、沖繩国際センター(仮称)との関連性についてもふれるものとする。

(3) 日本人専門家の処遇

事前調査時に確認された日本人専門家の処遇を規定した General Circular については、これが現行のものであることを再確認するとともに、今後規定が改正された時には、逐次連絡するルールを確立するものとする。

(4) 機材リストについて

機材は無償資金協力によるものであるが、その選択の根拠は、技術協力として行う訓練内容に基づくものであることを明確にするため、各訓練コース毎に代表的なものをあげたリストをR/Dに添付するものであることを明確にするものとする。

(5) 「マ」側カウンターパートの受入れについて

具体的な「マ」側カウンターパートの受入れについて、相互に意見交換を行い、必要に応じて Minutes 或は Note の形で相互に確認するものとする。

(6) チーフアドバイザーの権限に関して

技術協力を通じて技術移転を行っていくうえで必要なアドバイスはもとより、C I A S Tの活動の管理、運営に当たり、必要な助言についても行う権限の確保するものとする。

(7) ジョイント・コミッティについて

C I A S Tプロジェクトの実施に係る議決を行ったり、両国政府に勧告をするというのではなく、むしろ実施当事者間で常に意志疎通を図り、共通認識を得ることによって具体的にC I A S Tプロジェクトがスムーズに実施されていくための意見交換を行う場として位置付けていくものとする。

(8) 協力期間について

すでに事前調査団の Minutes で合意しているとおり、R/D上は5年間、必要に応じては7年間の協力を行うことになっているが、協力の成果を確保する観点から中間時点で現実を見つめお互いの気持を引締める意味で評価を行い見直しをするという趣旨を確認していくものとする。

VI 調査交渉概要

日 本 側 原 案

(DRAFT)

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN
THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF MALAYSIA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT ON THE CENTER FOR INSTRUCTOR
AND ADVANCED SKILL TRAINING (CIAST)

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. _____, President of the Employment Promotion Projects Corporation visited Malaysia from August __, 1982 to August __, 1982 for the purpose of working out the details of the technical cooperation programme concerning the project on the Center for Instructor and Advanced Skill Training (CIAST), the ASEAN Human Resources Development Project in Malaysia.

During its stay in Malaysia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Malaysian authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the technical cooperation programme for the above-mentioned Project.

As a result of the discussions, the Team and the Malaysian authorities concerned agreed, with reference to the Minutes of the Second ASEAN-JAPAN Meeting on the ASEAN Human Resources Development Project, JAKARTA, 6-7 October 1981, to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

①
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency, Japan

②
Secretary General,
Ministry of Labour and Manpower,
Malaysia

August , 1982

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>CENTRE のスペルを使用したい</p> <p>Kunihiko Dosho</p> <p>8, 22</p> <p>・各々署名者の名前をタイプする必要がある。</p>	<p>了解</p>	<p>CENTRE というスペルで全文を修正</p> <p>Kunihiko Dosho</p> <p>8, 22</p> <p>① Kunihiko Dosho ② Haji Abdul Latiff bin Sahan</p>

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of Malaysia will cooperate with each other in implementing the ^{*2} technical cooperation ^{*1} of the project on the Center for Instructor and Advanced Skill Training (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of developing human resources through the expansion and improvement of the vocational training system, and thus contributing to the success of the rapid industrialization programme envisaged under the Fourth Malaysian Plan.

Furthermore, as part of the ASEAN Human Resources Development Project, it is anticipated that the Project will strengthen and accelerate cooperation among ASEAN countries through the dissemination of training methods for vocational training and advanced skills in the region.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>1. The Government of Malaysia will establish the Centre for Instructor and Advanced Skill Training (CIAST) under the Fourth Malaysia Plan for the development of skilled manpower resources. CIAST will be the national institution for the training and the up-grading of vocational training instructors and supervisors to teach at training institutions and enterprises throughout the country and it will also conduct advanced skill training for skilled workers and instructors.</p> <p>○上記を追加したい、あくまでもCIASTは、マレーシア政府が行うプロジェクトであり、そこに日本が技術協力を行うものであるということを明確にするために Introduction をまず挿したい。この文章はすでに合意済の事前調査団 Minutes の目的の部分をものま反映したものであり内容に問題はないはずである。</p>	<p>○本条項の趣旨を説明する。</p> <p>P/Dは本文でもうたっているように日本側派遣の実施協議チームとその交渉に当たるマレーシア政府関係者（以下両者という）がCIASTプロジェクトを実施するにあたってとられるべき好ましい処置につき両国政府に勧告するものであり、この項においては、何故に両国政府は協力をしなければならないか</p>	

日 本 側 原 案

マレイシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>2. The Government of Japan and the Government of Malaysia will cooperate with each other in implementing the technical operation of CIAST (hereinafter referred to as "the Project"). The Government of Japan will provide assistance, as part of the "ASEAN Human Resources Development Project" as agreed upon between the Government of Japan and the five ASEAN countries, in the establishment of the Project.</p> <p>3. The Government of Malaysia will determine and be responsible for the implementation, conduct and operation of the Project.</p>	<p>協力をすることによってどんな意義があるのかを理解させるためのものである。従ってその期待される意義・協力の必要性をうたう必要があり、R/Dの体系上、これを最初にもってくることとなっている。</p> <p>○「マ」側及び「日」側が何をやるかということを述べる項目ではないことを説明する。</p> <p>○ * 1 しかし主体はマレイシア政府であることを明確にしたいという「マ」側の強い意向をくんで妥協案として* 1の次に「～ which will be established by the Government of Malaysia」を挿入することを提案する。</p> <p>○ * 2 日本原案の the technical cooperation of the project on the centre for ～は the</p>	<p>誤解をさけるため technical cooperation project という表現を使った方が好ましいという</p>

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
	<p>project = the technical cooperation で、これは、両国政府が協力するもので、言い換えれば日本の協力が終了すれば、the project on CIASTは存在しなくなり、CIASTのみが存在するものであることを説明。</p>	<p>ことで合意</p> <p>1. The Government of Japan and the Government of Malaysia will cooperate with each other in implementing the technical cooperation project on the Centre for Instructor and Advanced Skill Training which will be established by the Government of Malaysia under the Fourth Malaysia Plan (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of developing human resources through the expansion and improvement of the vocational training system, and thus contributing to the success of the rapid industrialization programme. Furthermore, as part of the ASEAN Human Resources Development Project, it is anticipated that the</p>

2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
		<p>Project will facilitate the strengthening and <u>acceleration</u> of cooperation among ASEAN countries through the dissemination of training methods for vocational training and <u>training in advanced skills</u> in the region.</p>

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expenditure services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

2. The Japanese experts referred to in 1. above and their families will be granted in Malaysia the privileges, exemptions and benefits in accordance with the General Circular No.1 of 1979 and the Amendment to General Circular No.1 of 1979 of the Government of Malaysia.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III.

マレーシア側修正提案・意見	日側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>DESPATCH</p> <p>expense the</p> <p>privileges</p> <p>○ 下線部分を削除</p> <p>○ 機材供与は無償資金協力の範囲に入るもので、しかも未だ機材供与リスト自体が決っていない段階でR/Dにその一部を添付することは好ましくない。R/Dに機材リストを添付する目的は何なのか説明して欲しい。</p>	<p>了解</p> <p>了解</p> <p>了解</p> <p>○ 討議に入る前にANNEXⅢのリスト（日本原案）をDraft Report Explanation Team が提出したリストの最初から10例ずつをList upしたものと入れかえたい旨説明の上、配布する。</p> <p>○ ① 無償資金協力（Grant Aid）で供与する機材に対して、正当性を持った根拠を示すことは、技術協力をスムーズに遂</p>	<p>DESPATCH</p> <p>expense the</p> <p>privileges</p>

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	F4]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○リストを添付することは了解。しかし、あくまでも供与される機材のほんの一部であるためそのことを明確にしてほしい。</p>	<p>行する上で必要不可欠なことである。従って、R/Dの一部として添付し、その点を明確にすることは不可欠であること。</p> <p>② R/Dそれ自体をみて「どの様な訓練が」「どの様な専門家の協力の下に」「どの様な機材を使って」行われるか…という一連のことが理解できるようになっていなければならない。従って機材リストもR/Dを構成する必要不可欠のものであること。</p> <p>③ 現時点ですべての機材を挙げることは不可能であるので典型的なものを列挙することにより全体を代表するという方法にしたいこと。</p> <p>④ できるだけスマートなリストにしたいこと。</p>	

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>「Some of the Equipment to be provided by the Government of Japan are as～」としてはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 技協15年の歴史の中で使用され相互に合意されてきたものだけに実態及び内容をふまえた表現である。 ◦ 本 Project 実施上に必要な機材は、「日」側供与分と「マ」側準備分からなり「日」側だけが供与するものではない。 ◦ 従って日本が供与する機材は別添 List of Equipment に示される事例のようなものという表現にならざるを得ない。 ◦ ANNEX III に示される事例は本 Project 実施に必要なものであるといているのであり、必要なもの全てがこれだとは言っていない。 ◦ 現段階では機材リストに必要な機材全部を載せることは不可能である。従って such ~ as という表現を使っているのであり、このようなものを日本は供与すると言っているのであり、これ以外は供与しないとは言っていない。 ◦ 他の R/D には Main Articles という表現を使っているものもあるが現時点で何が Main であるかは誰も決めることはできないので、その表現は好ましくない。 	

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>◦文法上は理解できるが Such の位置が遠すぎて意味がばく然として理解しにくい。Such は necessary と as の両方にかかるので Example という表現を入れたい。</p> <p>necessary for ～ 以下を削除するならば別だ</p> <p>◦Such を近くにしてはどうか</p>	<p>◦これは日本側としては、おとすことはできない</p> <p>◦Such as those listed ～ としてはどうか</p>	<p>1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project such as those listed in Annex III.</p>

日 本 側 原 案

The major portion of the Equipment will be provided under the grant aid scheme of the Government of Japan and as supplement, a small portion of the Equipment will be provided through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

2. The articles referred to in 1 above will become the property of the Government of Malaysia upon being ^①delivered c.i.f. to the Malaysian authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and ^②will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○今さら“Colombo Plan Technical Cooperation Scheme”という形骸化した表現を使うことはおかしいのではないか。</p> <p>○①については Equipment supplied under としたい</p> <p>○②についてはこれを削除したい</p>	<p>○現実的にはA4フォームというコロンプランのフォームに基づき日本の技術協力は行われているので、特に意味はないが、この表現は残したい。</p> <p>○①了解</p> <p>○このパラグラフの趣旨は、技術協力で供与する equipment についてのみ記述するものであることを説明し、 「The Equipment supplied under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme will～」としてはどうか。</p>	<p>原案通り</p> <p>① The Equipment supplied under Colombo Plan Technical Cooperation Scheme will～」</p> <p>② 従って「マ」側提案の削除部分は原文のまま残すこととする。</p>

IV. TRAINING OF MALAYSIAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Malaysian personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

2. The Government of Malaysia will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Malaysian personnel for technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. SERVICES OF MALAYSIAN COUNTERPART PERSONNEL AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with the laws and regulations in force in Malaysia, the Government of Malaysia will take necessary measures to secure at its own expense necessary services of Malaysian counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV.

2. As to the Malaysian counterpart personnel, the Government of Malaysia will endeavour to allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in Annex II, for effective and successful implementation of the Project.

VI. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF MALAYSIA

1. In accordance with the laws and regulations in force in Malaysia, the Government of Malaysia will take necessary measures to provide at its own expense the supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided by the Government of Japan under III above.

マレイシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>theを追加</p>	<p>了解</p>	<p>the</p>

日 本 側 原 案

2. In accordance with the laws and regulations in force in Malaysia, the Government of Malaysia will take necessary measures to meet as for the Equipment to be supplied under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme:

- (1) Expenses necessary for the transportation within Malaysia as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges, imposed in Malaysia;

3. In accordance with the laws and regulations in force in Malaysia, the Government of Malaysia will take necessary measures to meet all running expenses necessary for the implementation of the Project.

VII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Secretary General of the Ministry of Labour and Manpower represented by the Director General of the Manpower Department, Ministry of Labour and Manpower, will bear overall responsibility for the implementation of the Project.

The Director of CIAST, as head of the Project, under the supervision and direction of the Director General of the Manpower Department will be responsible for the administrative and managerial matters of the implementation of the Project.

2. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendation and advice on technical and administrative matters concerning the implementation of the Project to the Director General of the Manpower Department in close coordination with the Head of the Project.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>◦ Ⅲ、1と同様の趣旨で technical cooperation programme としたい</p> <p>operating としたい</p> <p>Head of としてはどうか</p> <p>◦ 基本的には、行政に関与してもらいたくないので削除したい。ただし、原案の趣旨、意図を説明していただければありがたい。必ずしもその意図を理解していないかも知れないので、</p>	<p>◦ Ⅲ、1で説明した理由により原文のままでもよい。</p> <p>◦ 了解</p> <p>◦ 小文字のままでもよい</p> <p>◦ むしろ2の Head of を head of とすべきである。</p> <p>◦ Administration に干渉したり、rocommend しようというのではなく、ここでは必要な物品の管理、調達方法、指導員の効</p>	<p>原案の通り</p> <p>operating</p> <p>原案の通り</p>

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○ Administrative という表現は、“広い行政”と解釈され誤解を招きやすい。</p> <p>○ 説明を聞いて意図は理解できた。つまり技術的専門的事項とそれに関連した administration matter であり technical matter という表現ではカバーしきれない事項が確かにある。従って、“and related administrative”としてはどうか。</p>	<p>率的な運用、活用、日本からのスムーズな機材の引取、日本人専門家と「マ」側カウンターパートの人間関係の円滑化等に関しては、日本のチーフアドバイザーの意見はプロジェクト遂行上、非常に有益であると考えること。</p> <p>○ また、当プロジェクトが ASEAN 人造りプロジェクトであること。本来、無償の対象国でないのに Grant Aid を行うこと、巨額なプロジェクトであるという観点から日本が重大な関心を示していることから失敗は許されないものであり、マレーシアの中心的センターとして成功させるためにも積極的に必要なアドバイスは行いたいという意図を反映した表現である。</p> <p>○ technical matter と administration matter はコインの表裏のようなもので不可分のものである。</p>	

3. For the effective and successful implementation of the Project, a Joint Committee (hereinafter referred to as "the Committee") will be established with the function and composition as referred to in Annex V.

VIII. INTERNATIONAL CHARACTERISTICS OF THE CENTER AS PART OF THE ASEAN HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT PROJECT

1. While the content of the programme is to be decided jointly by JICA and CIAST, with due consideration to the development of adequate capacity for such purpose, CIAST is to be open to nationals of all ASEAN member countries through regional training programmes to be formulated in the future.

The Government of Japan, through JICA, is ready to cooperate in the implementation of such regional programmes.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>functions</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦了解 	<p>and related administrative matter</p> <p>head (前述の了解事項による)</p>
<p>1. CIAST is to be open to nationals of all ASEAN member countries through regional training programme to be formulated as soon as it has developed adequate capacity for such purpose. The content of the programme is to be decided jointly by JICA and CIAST.</p> <p>と修正したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦了解 ◦議論の経過の中で「The content of ~ JICA and CIAST」という最後の2行については、議論が全くされていないことや他のASEAN諸国の意見を聞かなければならないことから時期尚早と判断され事前調査のミニッツのスタンスに立って削除することとする。 	<p>functions</p>

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>2. The Government of Japan, through JICA, is to facilitate and finance the implementation of such regional programmes. It is expected that such expenses will fall outside this grant aid and technical co-operation programme.</p> <p>○ Jakarta 会合ミニッツ33項でいう意味は、CIAS Tの establishment とプロジェクトの operation のためのみを対象とするものであり、regional programme は含まれないのではないか</p> <p>○ そんなことは、はじめて聞いた33項と37項の論旨は相反することが述べられており、「マ」国だけで inside などときめることはできない。他の4ヶ国が了解してくれるのであればよいが…</p>	<p>○ 日本政府が facilitate and finance するなどという考え方はないことで、必要経費は fall outside は fall inside の誤まりではないか。</p> <p>○ Jakarta 会合ミニッツの37項をみていただければ、プロジェクトそのものに含まれていることは明らかであり、regional programme がASEAN人造りプロジェクトに含まれないという議論は論外である。fall outside ではなく inside である</p> <p>○ 無償資金協力の議論の中で出てきた "Student Housing for ASEAN trainees"こそASEAN用プログラムが inside</p>	

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>◦ inside だということになると regional programme 用の予算がすでに配分されているのか。</p> <p>◦ regional programme なので「マ」国のみで決めるわけにはゆかない。ASEAN各国の意見もある。</p> <p>◦ 日本側原案に復帰することを了解する。</p>	<p>であるため言える話ではないか。</p> <p>◦ 予算の一定わくがASEANプログラム用だということではなく、inside であることが明確だということだ。実際にどの位の予算をどの様なプロジェクトとして実施していくかは、「マ」国政府がASEANプログラムを開始したいという時期になって検討することである。</p> <p>◦ 我が方としては、inside であるという事実、それ以外の予算措置はありえないということを明確にしておきたい。</p> <p>現時点では、ASEANプログラムについて、十分な討議がなされていないので協力の具体的内容は将来の問題として、現段階では、日本政府としては、何らかの協力をする用意があるということを示しているもので、この文章を落とすと日本の協力の根拠がなくなる。</p> <p>◦ 念のための情報であるがタイ国のセンターでは、初期の段階から、これを行うこととしており、この例でも inside であることは明確である。</p>	

2. Due consideration will be paid to appropriate linkage of the programme level between CIAST and the International Center (tentatively named) in Okinawa, which is to perform the function of liaison and back-up services to National Centers.

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○この部分を次のように追加修正したい。</p> <p>「While there will be no organic linkage between the National Centres and the International Centre」</p> <p>この表現は Jakarta 会合 ミニッツの抜すいであるため問題はなはずだ。</p> <p>○Okinawa Centre の機能はいろいろあるので、その一部をここで述べることは好ましくない。</p>	<p>○Jakarta ミニッツ 31 項を引用するのであれば</p> <p>appropriate linkage at the programme level between ~ will be jointly determined.</p> <p>も同時に引用すべきということに</p>	<p>1. CIAST is to be open to nationals of all ASEAN member countries through regional training programmes to be formulated as soon as it has developed adequate capacity for such purpose.</p> <p>The Government of Japan, through JICA, is ready to cooperate in the implementation of such regional programmes.</p>

日 本 側 原 案

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○それは、感謝している。</p> <p>○理解する。原文のままでもよい。</p>	<p>ならないか。しかし「マ」側としては後半の文章を再度R/Dの中で確認することは、現時点で好まないであろうということを配慮して原文のように tonedown してあることを評価して欲しい。</p> <p>○日本国内の事情としては、沖縄センターを育てなければならない。そのためには、マイナス要因はできるだけ少なくしたい。“no organic linkage”については、すでに Jakarta の会合で合意されているものであり、何人もこれを否定することはできない。ここに書かなかったからといって否定されるものではない。従って日本とマレーシアの友好のシンボルである、このCIA STのR/Dにわざわざ書き込まなくてもよいではないか。この点では「マ」側の理解を求めたい。</p>	<p>原案の通り</p>

IX. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of Malaysia undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from and occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in Malaysia except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

X. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

XI TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be basically five (5) years from August , 1982. However, there will be a general review by the Committee on the progress of the implementation of the Project after two years from the commencement of the cooperation.

マレイシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>wilful</p> <p>○ However を削除すべきである 理由：この言葉を入れることは すぐ前の文章（協力期間は原則 5年）が場合によっては否定さ れるという印象を強く表わすこ とになり「マ」側としては好ま しくないため。</p>	<p>○ However 以下の文章は、技術 協力プロジェクトの評価という 観点に大きな関心が払われるべ きであるということから、本来 は、 "However, there will be a general review by the Joint Steering Committee</p>	<p>wilful</p>

日 本 側 原 案

マレイシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
	<p>on the progress of the implementation of the Project during the second year in order to assess whether the terms of cooperation should be modified for the successful implementation of the Project"</p> <p>という表現にすべきであるとされているものである。従って、他のプロジェクトは、この方針で臨むことが強く指示されている。しかし、CIASTの件は関係者の努力によって、又計量センター (the National Metrology Laboratory of Standards and Industrial Research Institute of Malaysia) の時もはげしい議論が行われたものであり、その時は、 "However ~ of the cooperation taking account of measures to be taken by both Governments to decide if this Project should be continued" という日本原案に対して「マ」側の強い反論に合い、その時の「日」側の最大譲れる線として残したいものが "However ~" という表現であり、この結果を国内的には財政当局に納得してもらうのに大変</p>	

日 本 側 原 案

マレイシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○非常によく理解できた。</p>	<p>な苦勞をした。 その経緯をふまえて「マ」側の立場を考えて最大限に譲歩可能なものとして作成して、今回の案を持参したものであり、これを「No」ということになると、我々の努力は認められなかったことになり、東京に請訓すれば、それでは元の文章に戻せということになるのは明らかである。 「マ」側としては、今まで「マ」側の立場で国内議論を進めてきた我々防波提も失うことになり、我々としては、もはや責任は持てない。</p>	<p>原案のまま</p>

Annex I

MASTER PLAN

1. Objective of the Project

(1) To establish the Center for Instructor and Advanced Skill Training (hereinafter referred to as CIAST) under the Forth Malaysia Plan for the development of skilled manpower resources and the ASEAN Human Resources Development Project.

(2) CIAST will be the national institute for the training and upgrading of vocational training instructors and supervisors who will teach at training institution and enterprises throughout the country and it will also conduct advanced skill training for skilled workers and instructors.

(3) CIAST, as the "ASEAN Human Resources Development Project" in Malaysia is hoped to strengthen and accelerate cooperation among ASEAN member countries through the dissemination of training methods for vocational training and advanced skills.

2. Objectives of the Programme

The objectives of the technical cooperation programme during the term of cooperation are:

(1) To provide and conduct training courses in the field of pedagogy (teaching skills) and training materials development for potential vocational training instructors, as part of the training programme for them (hereinafter referred to as "Pedagogy Training");

(2) To provide and conduct advanced skill training courses for existing vocational training instructors, supervisors and skilled workers, as their upgrading programme (hereinafter referred to as "Advanced Skill Training");

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
institution	了解	institution
expected	了解	expected
training in を追加	了解	and training in advanced ~

日 本 側 原 案

(3) To provide and conduct training courses in the field of training methodology, supervisory skills and training materials development for existing vocational training instructors and supervisors, as their upgrading programme (hereinafter referred to as "Supervisory Skill Training");

(4) To design, develop and produce curriculum, other training software and control system for programmes conducted by CIAST (hereinafter referred to as "Training Softwear Development").

マレイシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>Software</p> <p>(5) To monitor and supervise internship of trainee instructors and trade instructors provided and conducted in training institutions.</p> <p>(6) To conduct any other advanced training programmes as and when necessary.</p> <p>の2項目を追加したい</p> <p>○日本人専門家からも相談にのってもらったこともあるし、必要に応じて対拠してゆくべきと考えているため。</p> <p>○よく理解できたので(5)、(6)をとり下げることに応じる。</p>	<p>○ここは the objectives of technical cooperation programme during the term of cooperation を述べているもので「マ」側提案の(5)、(6)項は、事前調査のミニッツで明確にしたようにC I A S Tの機能であるが、日本の技術協力の対象事項ではない。従って、日本の技術協力についてのR/Dの中に入れるのは好ましくないため不要。</p>	<p>Software</p> <p>「マ」側修正案(5)、(6)は削除</p>

3. Framework of the Training System in CIAST

Framework of the training system in CIAST to be covered by the technical cooperation by the Government of Japan will be as follows:

Type of Training	Entry Qualification	Capacity	Duration	Training System
<p>Note (a)</p> <p>1. Pedagogy Training</p> <p>a. Trainee Instructor Training Course</p> <p>b. Trade Instructor Training Course</p>	<p>SPM or its equivalent; and Completed two years of Trade Training with NITTCB Intermediate Grade Certificate or its equivalent.</p> <p>a) SPM or its equivalent; and Intermediate Grade NITTCB Certificate plus two years of industrial experience.</p> <p>b) SPM or its equivalent; and N.A.Ss. Certificate of Proficiency plus one year industrial experience.</p> <p>c) SPM or its equivalent; and five years of industrial experience.</p>	<p>60</p> <p>20</p> <p>20</p> <p>10</p> <p>10</p>	<p>6 months</p> <p>6 months</p> <p>6 months</p> <p>6 months</p> <p>6 months</p>	<p>Module</p> <p>Module</p> <p>Module</p> <p>Module</p> <p>Module</p>
<p>2. Supervisory Skill Training</p>	<p>Vocational Training Instructors and Supervisors</p>	<p>60</p>	<p>1-4 weeks</p>	<p>Module</p>

マレーシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論

日 本 側 原 案

Type of Training	Entry Qualification	Capacity	Duration	Training System
Note (b)				
3. Advanced Skill Training	Vocational Training Instructors, Supervisors and Skilled Workers	255		Module
a. Automotive Department		45	4-8 weeks	
b. Machine Operation and Die Making Department		45	10 weeks	
c. Heavy Shop Department		45	4-10 weeks	
d. Electrical and Electronic Department		45	3-10 weeks	
e. Instrument and Automatic Control Department		45	8 weeks	
f. Fabrication Department		30	5-20 weeks	
	TOTAL:	375		

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論

日 本 側 原 案

*Notes

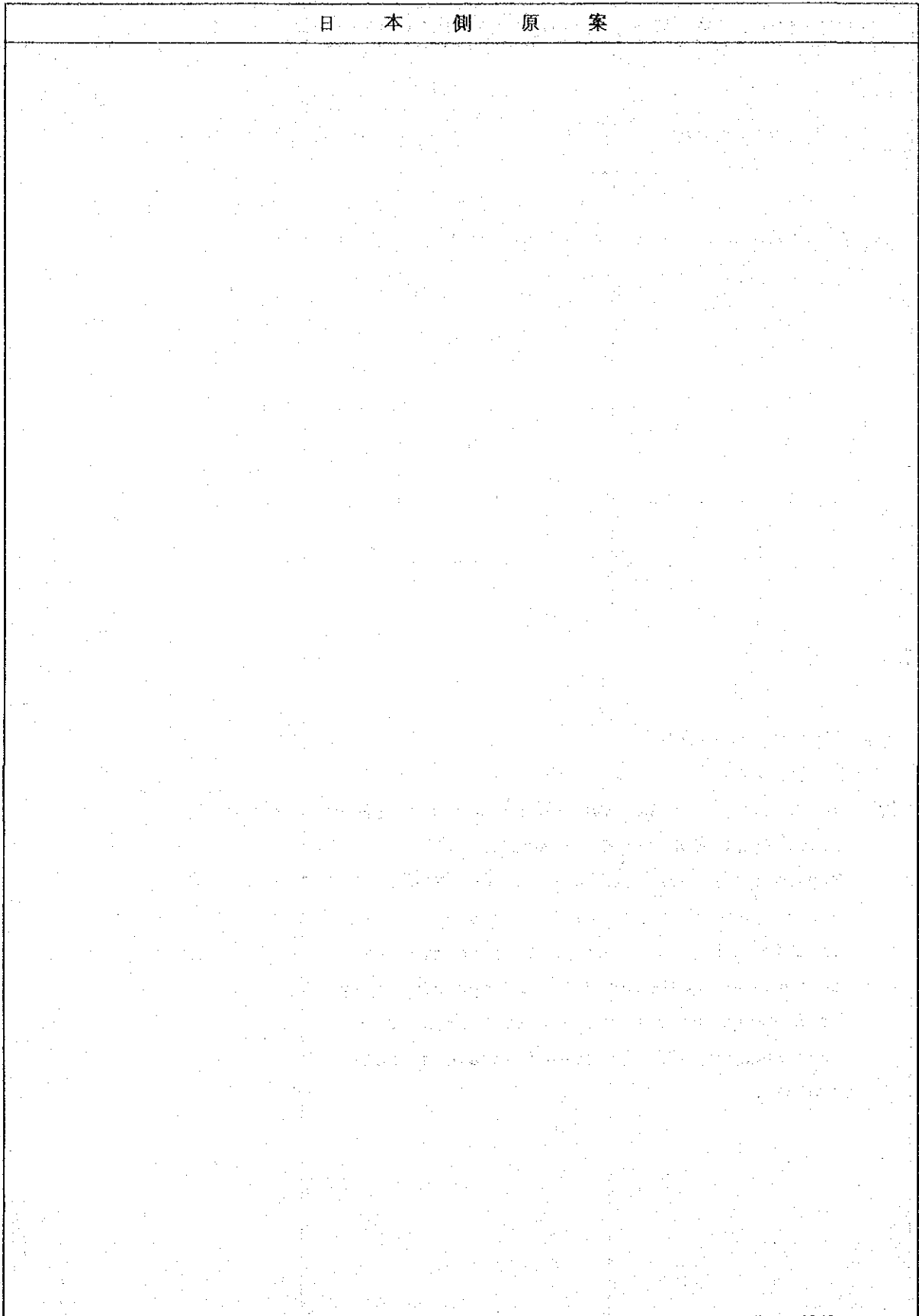
(a) To train new vocational training instructors, training courses will be conducted in and outside CIAST in the following manner, to be monitored and supervised by CIAST.

+ The total period of skill training should not exceed two (2) years.

Programme	Phase I+ Trade Skill Training	On-the-+ Job Training	Phase II+ Trade Skill Training	Pedagogy Training	Internship
Duration Course	6 to 12 months	3 to 6 months	6 to 12 months	6 months	6 months
Trainee Instructor Training Course	In VTIs	In-plant	In VTIs	In CIAST	In VTIs
Trade Instructor Training Course				In CIAST	In VTIs

(b) In the courses to be conducted under each Department of Advanced Skill Training, "Testing and Inspection Unit" will be set up as a separate unit. This unit will supervise and control appropriate testing or inspecting equipments to be procured from equipments for advanced skill training to be provided by the Japanese aid.

日 本 側 原 案



マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
		<p data-bbox="1066 376 1369 542">+ The total period of skill training should not exceed two (2) years.</p> <p data-bbox="1011 609 1410 1473">(b) In relation to the courses to be conducted under each Department of Advanced Skill Training, a separate unit called "Testing and Inspection Unit" will be set up in CIAST. In this unit, some appropriate testing or inspecting equipment will be kept centrally, among those equipment to be provided by the Japanese aid for use of advanced skill training.</p>

Annex II

JAPANESE EXPERTS

1. Chief Advisor
2. Coordinator
3. Experts in the field of:
 - (1) Training Software Development
 - (2) Pedagogy Training
 - (3) Advanced Skill Training
 - a) Automotive
 - b) Machine Operation and Die Making
 - c) Heavy Shop
 - d) Electrical and Electronic
 - e) Instrument and Automatic Control
 - f) Farbrication
 - (4) Supervisory Training

Note: Short-term experts may be despatched, when necessity arises,
for the smooth implementation of the Project.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>Fabrication</p>		<p>Fabrication</p>

Annex III

List of Equipment

List of articles to be provided by the Government of Japan
will be as follows:

1. Advanced Skill Training

(1) Automobile Department

Fuel Injection Pump Tester, Engine Analyzer, Vehicle Inspection
Line Facility, Frame Straighter, Engine Dynamometer

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○了解</p> <p>○了解</p>	<p>○下線部分を削除したい</p> <p>○事前調査の時に用いた仮のリストが間違っ添付されていたので、各訓練部門別の機材リスト（無償ドラフト説明ミッション提示リストより10項目を例示したリスト）に差しかえる。</p>	<p>削除</p> <p>リスト全体さしかえ</p> <p>1. Advanced Skill Training</p> <p>(1) Automotive Department</p> <p>Fuel Injection Pump Tester, Engine Analyser, Vehicle Inspection Line Facility (Chassis Dynamo Meter, Brake Tester, Head Light Tester, Side Slip Tester, Exhaust Emission Analyzer), Frame Straightener, Engine Dynamometer, Conrod Aligner, Pinhole Honing Machine, Piston Heater, Valve Seat Grinder, Valve</p>

日 本 側 原 案

(2) Machine Operation and Die Making Department Lathe, Universal Tool Grinder Machine, Copying Lathe, N.C. Milling Machine, Electric Discharge Machine, Profile Grinder

(3) Heavy Shop Department

TIG Arc Welder, Universal Testing Machine, Ultrasonic Flaw Detector, Injection Molding Machine, Air Hummer

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
		<p>Refacer.</p> <p>(2) Machine Operation and Die Making Department</p> <p>Precision Lathe, Jig Boring Machine, Upright Drilling Machine, Bench Drilling Machine, Shaping Machine, Vertical Shaping Machine, Universal Milling Machine, Vertical Milling Machine, Profile Milling Machine, NC Lathe.</p> <p>(3) Heavy Shop Department</p> <p>Air Hammer, Automatic Sawing Machine, Duplex Head Grinding Machine, Optical Pyrometer, Tempering Furnace, Dissociate Furnace, Metal Cleaning Tank, Shot Blast Machine, Rochwell Hardness Tester, Brinell Hardness Tester.</p>

(4) Electrical and Electric Department

High Voltage Power Board, Motor-Generator and Control Board,
Electric Dynamometer, Electronic Circuit Trainer, Regulated DC
Power Supply

(5) Instrument Department

Process Measurement Training Device, Automatic Control Training
Device, Controller, Transmitter, Control Value, Simulator

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
		<p>(4) Electrical and Electronic Department</p> <p>Power Distribution Panel, Insulation Testing Equipment, Thyristor Control System, Triac Control System, Testing Transformer, Induction Regulator, Induction Motor, Saturable Reactor, Motor Generator, Balancing Load (3 Phase).</p> <p>(5) Instrument and Automatic Control Department</p> <p>Thermocouple Training Device, Resistance Bulb Training Device, Pressure Measurement Training Device, Pump Pressure Control Training Device, Level Measurement Training Device, Water Flow Training Device, Air Flow Training Device, 3-Tanks Level Train-</p>

(6) Fabrication Department

Crank Press, Brake Press, Shearing Machine, Pipe Bender,
Bending Roll

2. Pedagogy Training and Supervisory Skill Training

Overhead Projector, 8m/m Camera and Projector, Video Tape Recorder
and Color Video Camera, Small Offset Press, Drafting Machine and
Tracing Board, Flicker Tester, Eye Mark Recorder

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
		<p>ing Device, Final Control Elements for Miscellaneous Training Device, Orifice Plates.</p> <p>(6) Fabrication Department</p> <p>TIG Arc Welder, MIG Arc Welder, CO₂ Arc Welder, Arc Air Gouging Welder, Engine Driven Welder, Plasma Cutting Machine, Automatic Gas Cutting Machine, Welding Positioner, Electrode Dryer, Universal Testing Machine.</p> <p>2. Pedagogy Training and Supervisory Skill Training Department</p> <p>Overhead Projector, Slide Projector, 16m/m Projector, 8m/m Camera, 8m/m Projector, 35m/m Camera, Copy Stand, Close-up Equipment, Enlarger, Video Tape Recorder.</p>

Annex IV

LIST OF MALAYSIAN STAFF

1. Director
2. Deputy Director
3. Counterpart personnel corresponding to the fields of the Japanese experts as listed in Annex II.
 - (1) Training Software Development
 - (2) Pedagogy Training
 - (3) Advanced Skill Training
 - (4) Supervisory Training
4. Administrative Staff
 - (1) Administration
 - (2) Accounting
 - (3) Clerical work
5. Other personnel mutually agreed upon as necessary.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>◦国内人事は、人事院の権限で実施されるもので、この表現は好ましくないので次の様に修正したい。</p> <p>Other necessary personnel</p>	<p>◦了解</p>	<p>Other necessary personnel</p>

Annex V

THE JOINT COMMITTEE

1. Function

The Joint Committee will meet at least once a year and whenever necessity arises, and work:

(1) To formulate the annual operational plan of the Project in line with the Tentative Implementation Schedule set up under the framework of this Record of Discussions;

(2) To review the overall progress of the technical cooperation programme set out in this Record of Discussions as well as the achievements of the above-mentioned annual operational plan;

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>(3) To recommend appropriate measures to be taken by the two Governments on matters concerning the smooth implementation of the technical cooperation programme;</p> <p>を挿入し、審議会的な権限を持たせる Committee にしたい。</p>	<p>o Joint Committee という名称を使っているが、性格は、Steering Committee on CIAST であること。更に年1回開催される会議であるため</p> <p>(1) to formulate the annual operational plan</p> <p>(2) to review the overall progress of the technical cooperation programme</p>	

日 本 側 原 案

マレイシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
	<p>(3) to review and exchange views ~</p> <p>というのが主な役割であり、いちいち政府に recommend して政府がそれを受けて検討して審議にかけて政府に勧告する Council とは違うものである。そのためにメンバーには「マ」側からは政府代表「日」側からは JICA 所長が加わっており、この Committee での討議をふまえ、直ちに前進できるような実行力のあるものにしておくことが必要であり、政府に recommend するものではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ またメンバーについても「マ」側は政府の representative とはいえ政府そのものであるが「日」側は chief adviser 等が主要メンバーでありバランスを欠く。 ◦ 即ちメンバーの構成からみると駅と駅の間を走っている蒸気機関車を動かす機関手と機関助手の関係で、いちいち、その機関車を動かすのに運輸大臣とか、鉄道会社の社長、或は駅長等に伺いをたてて聞いていたら機関車は動かない。2人が駅の間をどう走らせるかを決めればよい。 ◦ 機関車の例をひいた如く、今、動いている CIAST をよりよく動かすために、当事者同志が計画を立て、実施進捗状況を検討し、意見を交換することによ 	

日 本 側 原 案

マレイシア側修正提案・意見	「マ」側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>○よく理解できた</p>	<p>って進めていくことのできる弾力的、かつ、実行力のあるものにしておくことが必要である。わざわざ政府に勧告して、いつ出てくるかわからない政府の答申を待たねば動けないような Committee にすることはないのではないか。</p>	<p>「マ」側提案削除</p>

(3) To review and exchange views on major issues arising from, or in connection with technical cooperation programme.

2. Composition

(1) Chairman:

Director General of the Manpower Department

(2) Malaysian Side:

a) Director of Human Resource Section for Marco Planning of EPU;

b) Director of Social Service Section for Social Planning of EPU;

c) Director of CIIAST;

d) Other personnel related to CIIAST and Malaysian authorities concerned designated by the chairman.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
<p>Secretary General/Deputy Secretary General of the Ministry of Labour and Manpower</p> <p>(a) Malaysian Side:</p> <p>i) Representative of the Ministry of Labour and Manpower;</p> <p>ii) Representative of the Economic Planning Unit; Prime Minister's Department.</p>	<p>○了解</p> <p>○了解</p>	<p>(1) Chairman: Secretary General/ Deputy Secretary General of the Ministry of Labour and Manpower.</p> <p>(2) Members</p> <p>(a) Malaysian Side:</p> <p>(i) Director General of the Manpower Department;</p> <p>(ii) Representative of the Economic Planning Unit, Prime Minister's Department;</p>

(3) Japanese Side:

- a) Chief Advisor;
- b) Experts designated by the Chief Advisor;
- c) Resident Representative of Kuala Lumpur office, JICA;
- d) Personnel concerned to be despatched by JICA if necessary;
- e) Coordinator

Note: Officials of the Embassy of Japan may attend the Joint Committee as observers.

マレーシア側修正提案・意見	[マ]側修正に対する日本側提案・意見	結 論
		記号修正